

全学共通カリキュラム運営センター副部長／理学部教授 森本 正和

1996年から毎年発行されてきた「大学教育研究フォーラム」は今回で第31号となります。本号では、特集として、西原廉太先生、井川充雄先生、山口和範先生に行っていた座談会「全学共通科目のこれまでとこれから」を掲載しています。2016年度に「RIKKYO Learning Style」が始まってから10年が経過し、現在は「RIKKYO Learning Style 2.0」へ向けて学内で様々な検討がなされています。そのような中、本座談会では、全カりに深く関わってこられた3名の先生方に、全学共通科目のこれまでを振り返っていただきつつ、立教大学の教育や全学共通科目の将来像などについて語っていただきました。

また、2025年9月に開催された2025年度全カリシンポジウム「RIKKYO Learning Style 2.0における全カリ完成期科目の役割と展望」の筆録も掲載しています。現在、高学年次教養教育としての完成期科目の充実化が検討されており、シンポジウムではその参考となる授業の紹介や意見交換が行われました。東京大学の石井剛先生に基調講演をしていただき、東京大学で開講されている東アジア藝文書院 学術フロンティア講義「30年後の世界へ」のねらいや授業運営などをご紹介いただきました。また、倉品武文先生、河村賢治先生より、本学で開講されている立教ゼミナール発展編2「現代社会を生きる」、コラボレーション科目「SDGs × AI × 経済×法」についてそれぞれご紹介いただきました。

事例報告では、しょうがい学生支援室長の山田康裕先生より、しょうがい学生支援における合理的配慮のための建設的対話に関して、現場で生じうる問題や実際の支援・対話での留意点をご解説いただきました。また、岡敏彦先生より、総合系科目・学びの精神「自然科学の探究」におけるオムニバス形式の授業実践の例をご紹介いただきました。

授業探訪では、竹下愛先生より言語系科目・自由科目「入門インドネシア語」、北本俊二先生より総合系科目・多彩な学び「宇宙の科学」、泉水浩隆先生・町沙恵子先生より総合系科目・学びの精神「なぜ外国語を学ぶのか? ～複言語・複文化主義入門～」について、それぞれの授業の様子や、教授法の工夫をご紹介いただきました。

最後に、エッセイでは、水上徹男先生、上田信先生、菅沼隆先生より、全カリでのこれまでのご活動や、授業におけるICT活用とその意義についてご寄稿いただきました。

本号も充実した内容となっており、教育に関連する、皆様の様々な活動や思考にご活用いただけることと思います。

もりもと まさかず